

ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立実行委員会
第4回 次第

日時 令和6年9月9日（月）15時30分～

場所 宮津商工会議所 3階 大会議室

1 開 会

2 議 題

（1）日本三景「天橋立」海の京都にぎわいフェスタ 事業総括について

（2）ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立実行委員会の決算について

（3）ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立実行委員会の解散について

（4）その他

3 閉 会

ブルーインパルス展示飛行in天橋立実行委員会名簿

No.	団 体 名	備 考
	【構成団体等】	
1	宮津市	会長
2	与謝野町	
3	宮津商工会議所	副会長
4	宮津市自治連合協議会	
5	宮津市消防団	
6	天橋立観光協会	
7	宮津天橋立観光旅館協同組合	
8	宮津観光ピント会	
9	天橋立文珠繁栄会	
10	天橋立府中観光会	
11	海の京都DMO総合企画局	
12	北近畿タンゴ鉄道(株)	監事
13	WILLER TRAINS(株)	
14	西日本旅客鉄道(株)京滋支社	
15	丹後海陸交通株式会社	
16	日本交通株式会社福知山営業所	
	【関係機関】	
17	宮津警察署	
18	宮津与謝消防署	
19	宮津海上保安署	
20	京都府総合政策環境部地域政策室	
21	京都府丹後広域振興局	
22	京都府丹後土木事務所	
23	自衛隊京都地方協力本部	
24	航空自衛隊経ヶ岬分屯基地	
25	海上自衛隊舞鶴地方総監部	
26	陸上自衛隊福知山駐屯地	
27	京都府道路公社山陰近畿自動車道事務所	
28	NEXCO西日本関西支社亀岡高速道路事務所	
	【オブザーバー】	
29	(株) J T B 京都中央支店	
	【顧問】	敬称略
	衆議院議員 本田 太郎	
	京都府議会議員 中島 武文	

日本三景「天橋立」海の京都にぎわいフェスタ
- ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立 -
事業総括

■趣旨

宮津市民はもとより海の京都エリアの市町、関係機関、団体、多くの来訪者の方々とともに、記念すべき宮津市制施行 70 周年及び旧国鉄宮津線（現・京都丹後鉄道宮舞線）開業 100 周年を祝して実施したもの。

■効果・目的

- (1) 天橋立の認知度向上を図るとともに、宮津市をはじめ海の京都エリアの魅力発信、北部 7 市町の周遊性の向上、地域経済の活性化につなげる。
- (2) 来年開催の大阪・関西万博に向けた大阪、京都からの臨時特急、高速バス増便や旅行商品造成など、海の京都エリア全体へのアクセス向上に取り組む。
- (3) 今後の大規模イベント開催に向けた安全・円滑な受入れ態勢の構築を図ります。

■開催日時

令和 6 年 7 月 21 日（日）「日本三景の日」 10 時～15 時

〈ブルーインパルス展示飛行概要〉

- ・ 飛行時間 13 時 40 分～（30 分程度）
- ・ 飛行場所 宮津湾上空

※宮津湾岸、阿蘇海沿岸地域（日置、府中、岩滝、吉津、文珠、市街地、栗田の一部等）を観覧場所として幅広く推奨。

- ・ 予行飛行：7 月 20 日（土）14 時～（30 分程度）の予定
⇒天候不良により中止

■内容

- 航空自衛隊ブルーインパルスの展示飛行
- 海の京都エリアの食や物産品等の販売
- 地元団体等による郷土芸能やダンス、自衛隊舞鶴音楽隊の演奏披露 など
- 日本三景、海の京都の観光 PR、自衛隊の PR や自衛隊車両の展示（主会場中心）
- ブルーインパルス in 天橋立フォトコンテストの実施

■全体の主な成果（実績）

観覧者数 70,000人

- ・島崎エリア<25,000人>
- ・文珠エリア<20,000人>
- ・府中エリア<5,000人>
- ・阿蘇シーサイドエリア<6,000人>
- ・その他 <14,000人>

〈経済効果〉 10億900万円

本イベントの開催がもたらした経済効果として、宿泊や飲食・物販など、実績数値や関係者へのヒアリングに基づき算出した直接消費額は6億2,007万円となった。
波及効果を含んだ総合効果額は10億900万円となった。

直接消費額 620,074,200円

① 交通(7/20・7/21) 110,646,800円

○鉄道利用者 約8,500人

○駐車場 約8,000台

臨時開設駐車場@2,000円、民間駐車場@1,000円～4,000円

○ツアー利用者 4,275人 @10,000円

② 宿泊(7/19～7/21) 311,500,000円

○市内5,500人 @25,000円 137,500,000円

○市外8,700人 @20,000円 174,000,000円

③ 昼食 70,000人 130,427,400円

○市街地単価@2,000円 観光地単価@3,000円

④ 物販 33,600,000円

16,800人(4エリア来訪者の30%) @2,000円

⑤ 実行委員会決算 33,900,000円

〈海の京都エリアの魅力発信効果〉

海の京都エリアの魅力を発信する機会と位置付ける中で、飲食ブースや観光PRブース等の出店による魅力発信や、フォトコンテスト、特設ホームページ情報等の発信により、宮津・天橋立の魅力を多くの人に認知してもらう機会となった。

① 飲食ブース出店数 / 48店 ○売上金額/約6,350,000円

※宮津市10、与謝野町1、伊根町1、京丹後市8、
舞鶴市17、綾部市1、福知山市2、その他8

② ブルーインパルス in 天橋立フォトコンテスト

応募総数 335点 (7月21日～8月19日)

入賞作品 23点 (市長賞・海の京都賞ほか)

③ 特設ホームページPV数 181,076PV

＜旅行商品造成等による誘客・周遊効果＞

2025 年開催の大阪・関西万博を見据え、関西圏からの誘客アクションとしてツアー造成等をエージェントに働きかけを行うとともに、鉄道の増結・増車対応など、海の京都エリアへの誘客に取り組んだ。また、京丹後市や舞鶴市、福知山市などからもツアー造成を行い、エリア内の周遊性向上の契機とした。

① ツアー造成数

○京阪神方面 バス 100 便 4,000 人
(MKトラベル、クラブツーリズム、日本旅行など)

○海の京都エリア

- ・バス5便 250 人(福知山市2便、舞鶴市2便、京丹後市1便)
- ・汽船 25 人(海の京都 DM0/天橋立～伊根航路)

② 鉄道の輸送力強化(増車・増便)

・8時～13 時の間で約 860 人(復路:約 1,080 人)の輸送力増

＜受入体制の構築＞

大規模イベントを開催するにあたってのノウハウを蓄積し、円滑なイベント運営に繋げていくため、駐車場の有料事前予約制度の導入やコールセンターの設置、関係機関と連携した警備計画等を策定するなど、多様な新たな取り組みを試みた。

① 交通渋滞緩和策

○有料駐車場事前予約システム導入

3,846 台 7,692,000 円

○京都丹後鉄道の輸送増強(増車・増結)

※想定：宮津駅着 2,000 人、天橋立駅着 1,000 人

【往路】宮津駅降車 3,121 人、天橋立駅降車 2,476 人

【復路】宮津駅乗車 3,522 人、天橋立駅乗車 1,985 人

② 警備計画の策定

観覧会場、駅及び駐車場周辺の警備体制構築

市職員 42 人、消防団 22 人、警備員 183 人、警察 120 人

③ 救護所、救護室、クールスポット各5箇所の設置

看護師を含め 30 名体制確保

- ・救護所対応人数 59 人(うち熱中症 49 人)

④ 一般ボランティアの参加 参加 68 人

- ・第一生命保険(株)26 人、宮津与謝管内郵便局 15 人、海洋高校 10 人、宮津天橋高校 6 人、一般参加 11 人

⑤ 一元化対応を図るコールセンターの設置

設置期間:令和6年6月 14 日～7月 24 日

■評価すべき点

- 大規模イベントの開催となったが短期間で的確な準備作業が行えた。
 - ・ 関係機関との連携、協力による警備や輸送、イベント体制等の構築
 - ・ 市役所庁内プロジェクトチーム設置による全庁準備体制の構築
- 事前の広報活動により、ツアーバスをはじめ市外から多くの来場者が訪れたことから、宮津・天橋立の認知度向上につながるとともに、海の京都エリアのブース出店等による魅力発信の機会となった。
- 7万人の集客による経済効果が得られた。
(当初想定：9億5,600万円 ⇒ 実績：10億900万円)
- 今後につながる交通インフラの実情把握が行えた。
 - ・ 民間施設を含め主要な駐車場キャパ数等の把握
 - ・ JR西日本と京都丹後鉄道の連携による鉄道輸送力の把握
 - ・ 京阪神圏内からの旅行会社によるツアー造成の効果（駐車場確保等）
- 幹線道路が少なく交通渋滞が発生し易い地域事情の中で、交通渋滞緩和策の実施により、流入時における市内の渋滞発生を抑止できた。
 - ・ ブルーインパルス観覧会場の分散化（4箇所）
 - ・ 有料駐車場の事前予約システム導入
 - ・ 公共交通機関推奨等の事前広報の徹底
- 市制施行70周年記念を祝す市民との協働によるステージイベントが実施できた。
 - ・ 海上自衛隊舞鶴音楽隊による宮津中学校・宮津天橋高校の吹奏楽部への指導及び合同演奏の披露
 - ・ みやづ Kids ハーモニー等の地元団体による活動披露、宮津浮太鼓や宮津おどりの伝統芸能の披露
- 海の京都エリアの周遊促進
 - ・ 舞鶴市や福知山市、京丹後市など海の京都エリア内のバスツアー造成（福知山市2便、舞鶴市2便、京丹後市1便）
 - ・ 天橋立～伊根航路（2往復）の造成
 - ・ 鉄道の輸送力強化（増車・増便）

■課題

○熱中症対策

気温が 37 度を超えるという想定を上回る酷暑であり、ミップル内の 3・4 階や歴史の館では、多くの方々が休憩（野戦病院化）される状況となった。

夏期（日中）のイベント開催やクールスポット対策のあり方など、課題となった。

○宮津市の都市基盤（公共交通機関の輸送力、駐車場、道路網等）が脆弱であることが改めて認識された。

今回のような大規模イベントを実施する上での、今後のまちづくり等に対する課題となった。

○イベント開催にあたり 500 名を超えるスタッフが運営に携わった。人口減少・高齢化が進行していく中、市職員や市民等の人的リソースも細っていくことが予想されるため、市民との協力体制、他市町との連携協働など、イベント開催の体制づくりが課題となった。

○イベントを通じた地域経済効果の最大化を図るには、観光事業者との連携が不可欠となる。営業時間を変更した臨時開業など、こうしたイベントを上手く活用した自主的営業が望まれる。

○展示飛行が終了した 21 日 14 時以降は、道路交通の渋滞（市内 3 時間半、高速道路 4 時間半）、本数・乗員数の少ない列車を待つ宮津駅には長蛇の列が長時間も続く状況となった。猛暑の中での帰路対策や事前周知のあり方等が課題となった。

＜実績詳細＞

1 イベント関係

- 出演団体の活動披露の場として有意義な機会となったが、猛暑の中で、子どもの参加者が多く、各団体において暑さ対策に苦慮されていた。
- ブース出店においては海の京都 DM0 の協力もあり、海の京都エリア（北部 7 市町）から一定数の事業者が参画されたことは魅力発信に寄与したが、出店料を徴収する中で、会場によって売り上げに差が生じたことは、公平性の観点で課題となった。
- 猛暑となった中で、来賓招待者やステージイベント出演団体の控室を準備していたが、クールスポットを求める来場者が多くあったことから、十分なスペースが確保できず課題となった。

(1) ステージイベント 6 団体 172 名参加

- ・吹奏楽演奏 / 自衛隊舞鶴音楽隊 29 名
- ・子どもたちによる合唱 / みやづ Kids ハーモニー 15 名
- ・子どもたちによるダンス / Mad pamp 69 名
- ・宮津浮太鼓の披露 / 宮本自治会 30 名
- ・福知山酒呑鬼太鼓の披露 / 福知山陸上自衛隊 16 名
- ・吹奏楽合同演奏
(自衛隊舞鶴音楽隊・宮津中学校吹奏楽部 20 名・宮津天橋高等学校吹奏楽部 11 名)
- ・宮津おどりの披露 / 宮津おどり振興会 13 名

(2) 海の京都エリアの食や物産品等の販売（4 会場合計）

- ・海の京都関連食・物販 48 店、BI 関連物販 20 店 合計 98 店

※海の京都エリア出店数

宮津市 10、与謝野町 1、伊根町 1、京丹後市 8、舞鶴市 17、綾部市 1、
福知山市 2、その他 8

- ・出店売上 飲食 約 6,350,000 円 BI 関連物販 約 12,900,000 円

(3) 航空自衛隊ブルーインパルスの展示飛行

- ・飛行時間 13 時 40 分～ 約 30 分(11 演目)
- ・飛行場所 宮津湾上空

※宮津湾岸、阿蘇海沿岸地域（日置、府中、岩滝、吉津、文珠、市街地、栗田の一部等）で観覧

※ 7 月 20 日（土）14 時～の予行飛行は悪天候のため中止

(4) ブルーインパルス in 天橋立フォトコンテスト

応募期間：7 月 21 日～8 月 19 日 応募作品 335 点

(5) PR ブース

宮津市（SDGs、移住定住）、海の京都、日本三景、自衛隊等の PR ブースを設置。

※自衛隊等 PR 10 ブース、陸自車両 12 両

(6) ブルーインパルスマイクパフォーマンスを主会場から 3 会場へライブ配信

2 警備関係

- 宮津警察署等とは雑踏、交通渋滞等最悪の事態を想定して、10 数回にわたり協議を行い計画を策定した。
- 警備計画及び警備要領のとおり警備活動は実行でき、雑踏事故、転落事故、テロ事案等は発生しなかった。
- 来場規模や動線の予測が非常に難しく、結果的に警備計画は一部過大対策となった面もある。
- 予行飛行の 20 日から警備体制を執り、不測の事態に備えるとともに、早朝からの渋滞、雑踏の発生に備え本部を設置。職員の動員時間を 2 時間前倒しした。
- 公共交通機関利用・駐車場の事前予約車のみ来場の推奨や市内の渋滞発生時の流入規制実施の周知・広報の徹底を行った。
→市内道路では、流入車両による大きな渋滞は発生しなかった。
- 帰路において、市内道路は 3 時間半、高速 I C 付近、京都縦貫道内で渋滞が発生した。高速道路上は午後 8 時頃には渋滞が解消した。

3 輸送関係

- 鉄道事業者、バス運行事業者及び旅行会社と来客想定を共有し、輸送量拡大やシャトルバス、ツアーバス受入を実施した。
- 京都丹後鉄道、丹海バス及び警備部会と鉄道、バス運行計画を共有し、宮津駅、天橋立駅の雑踏対策を行なった。
- ツアーバスは、往路・復路ともトラブルなく輸送を完了した。
- 鉄道輸送は、事前の対策により、駅での雑踏事故等は発生しなかったが、当日は、想定を超える鉄道利用者の影響を受け、炎天下での長時間の乗車待ちにより体調不良者が発生し、夏季イベントの帰路対策が課題となった。
 - (1) 海の京都周遊バス 5 便（福知山 2 便、舞鶴 2 便、京丹後 1 便） 約 250 人
 - (2) 天橋立～伊根航路 1 日 2 往復（海の京都 DM0） 25 人
 - (3) 京阪神等からのツアーバス 約 100 便 約 4,000 人
 - (4) 丹鉄宮津駅（約 1,300 人）、天橋立駅（約 600 人）で乗降待ちの行列が発生。
概ね午後 7 時半頃には丹鉄等の努力（臨時便、増車等）により解消できた。
※福知山行が途中落雷の影響で緊急停止したため、京都方面への乗客が福知山駅（列車ホテル）で一夜を明かした（翌日午前 5 時に臨時便で帰路へ）。
 - (5) 酷暑の中、長時間の行列で熱中症の方が発生（9 人：幸い軽症者のみ）。急遽、宮津駅近くの市施設をクールスポットとして開設するとともに、飲料水を配布した。
 - (6) 福知山行きの臨時バスを手配し、約 40 名が乗車。

＜宮津駅、天橋立駅の乗降者数＞

		想 定	実 績	備 考
宮津駅	降車(10-13 時)	2,000 人	3,121 人	
	乗車(14-19 時)	2,000 人	3,522 人	
天橋立駅	降車(9-13 時)	1,000 人	2,476 人	
	乗車(14-18 時)	1,000 人	1,985 人	

※降車（行き）における、西舞鶴駅、福知山駅での乗り残しなし

＜帰路時の宮津駅、天橋立駅での滞留者数＞

○宮津駅

	滞留延長	最大滞留者数	最大滞留時間	推定
福知山方面	150m	450 人	4 時間	14 : 00～18 : 00
西舞鶴方面	180m	540 人		
豊岡方面	100m	300 人		

○天橋立駅

	滞留延長	最大滞留者数	最大滞留時間	推定
西舞鶴方面	100m	300 人	3 時間 30 分	13 : 30～17 : 00
豊岡方面	100m	300 人		

＜帰路時の観覧者が宮津駅を最後に出た便＞

- 宮福線（福知山行）→ 19 : 37 発
- 宮舞線（西舞鶴行）→ 19 : 39 発（追加臨）
- 宮豊線（豊岡行）→ 19 : 25 発

＜想定外の事象＞

○輸送人員

- ・輸送見込み人員が宮津駅 2,000 人、天橋立駅 1,000 人としていたが、帰路の実績として宮津駅 3,522 人、天橋立駅 1,985 人の乗車

○天橋立駅での利用者

- ・福知山、舞鶴方面からの乗客は、島崎会場のある宮津駅下車を HP で依頼していたが天橋立下車の人員も多数あり
- ・宮津駅で乗り換え時間が長時間となったため乗客の不満等が増大

＜想定外の事象に対する対応＞

- ・乗車待ちの乗客に向けた飲料水配布 20 箱×24 本入り 16 : 00 頃より
- ・福知山行き借り上げバス運行 1 台 18 : 35 宮津駅発 約 40 名乗車
- ・ダイヤ外の臨時列車 ※当日に臨時便を運行
 - 西舞鶴→宮津 1 本(2 両) 12 : 00 台→乗車 210 人/定員 238 人
 - 宮津→西舞鶴 1 本(2 両) 16 : 00 台→乗車 220 人/定員 210 人
 - 西舞鶴→網野 1 本(2 両) 17 : 00 台→乗車 70 人/定員 100 人 (宮 20・天 50)
 - 網野→西舞鶴 1 本(2 両) 19 : 00 台→乗車 15 人/定員 100 人 (宮 10・天 5)
- ・丹鉄による救護所の増設 (宮津与謝消防本部と連携)

- ・臨時クールスポットの設置 → ささえあいセンター
- ・体調不良者を搬送する市のバスを、宮津駅ロータリーに駐車させ救護所兼クールスポットとして活用

〈事前の広報で、輸送力が少ない中、公共交通機関での来場を推奨した理由〉

- ・市街地や文珠地区等において、実行委員会が手配した事前申し込み有料駐車場が、短期間で完売したこと、民間を含めてまとまった駐車場の確保が困難である中で、市街地等の渋滞による市民生活の支障を軽減する目的で、公共交通機関の利用を推奨したもの。

4 衛生関係

〈トイレ関係〉

- 利用者分散のため、各会場に仮設トイレを設置したが、炎天下ということもあり利用者は少なかった。
- 島崎会場においては、宮津阪急ビル及び歴史の館のトイレに集中し、分散を呼びかけたが、多くの利用者がその場にとどまった。緊急対応として、歴史の館では1階トイレを女性専用とし、男性は他の施設等に振り分けるなどを行った。

〈ごみ関係〉

- 定期的に巡回清掃を行ったため、ポイ捨て等の抑制は図られたものの、ごみの分別（ペットボトル→ボトル・プラに分離）までは徹底されておらず、改めて分別作業を行う必要があった。
- ブース販売店でのごみ回収の周知が十分ではなかった。
- 巡回清掃中に、ごみ収集してもらえると誤解が生じ、ごみを渡したい観覧者に清掃員が取り囲まれ、活動できないといった状況も生じた。

(1) 仮設トイレ 78 基設置

（島崎 24 基、天橋立・文珠 18 基、天橋立・府中 12 基、阿蘇シーサイドパーク 24 基）

(2) 会場内の清掃 ボランティア 68 名（再掲）

※市民、宮津天橋高校、海洋高校、第一生命、郵便局など

5 救護救急関係

- 夏季日中の開催であり、当日の気温等からも、一定数の熱中症発症は避けられない状況であったが、重症者がなかったことは良かった。また、救護所での一次対応の効果も大きかった。一方で、来訪者の「健康と命を守る」観点からは、救護救急に係る人員体制や救急搬送能力等に限界がある中、広範な会場設置により多くの来訪者を見込む同種イベントの夏季日中開催の大きな課題となった。
- 人員（体制）…総勢 30 名。外部（府、訪看 ST）の協力も得て、出役できる最大の人数で対応したが、ピーク時には不足が生じた。加えて、一部会場においては本部文所のスタッフが長時間不在になったこと等により、本来業務以外の対応に追われ、スタッフに大きな負担を強いることになった。本部分所のスタッフ体制が不十分だった。

■飛行開始（14 時）前後から救護所来訪者急増

→それまではクールスポットに退避していた方が、一斉に屋外に出てきたこと
によるものと思料

(1) 救護所対応人数：59 人（うち熱中症 49 人、その他 10 人）

うち救急搬送人数 4 人（全て熱中症）

※救急搬送の総人数は 15 人であり、差の 11 人は救護所を介していないもの

※重症者はなし

(2) 資材関係：概ね充足していた。特にシェード（日差し除け）、ミストファン、車椅子は効果あり。今後も夏季イベントには有効。

(3) 救護所：6 か所設置 ※スタッフ：1 か所あたり 2 名（うち 1 名は保健師又は看護師）
（島崎 2 箇所、天橋立・文珠 1 箇所、天橋立・府中 1 箇所、阿蘇シーサイドパーク 1 箇所、
宮津駅 1 箇所）

(4) 救護室：5 か所設置 ※スタッフ：1 か所あたり 2 名（うち 1 名は保健師又は看護師）
（立体駐車場 1F、みやづ歴史の館 1F、京都府公園管理事務所、
天橋立アクティビティセンター、阿蘇シーサイドパーク公園管理棟）

(5) クールスポット：5 か所設置
（ミッブル第 1 コミュニティルーム、宮津歴史の館 1F ロビー・3F 大会議室・3F 和室、
文珠公民館、府中地区公民館、与謝野町保健センター）

6 駐車場関係

■駐車場事前予約販売について、イベントとセットで販売すべきとのアドバイスもあったが、販売→即完売の状況となり、単品販売でも（イベントによっては）十分成立することが立証できた。

■1 次販売、2 次販売システムは、立地条件の良い場所から販売することで販売状況に合わせた拡充（打ち止め）の検討など、効率的でスムーズに展開できるいい手法であった。

■完全事前予約前払制とすることの効果（キャンセルポリシーは必須）

○一定の料金収入があり、イベントの充実施策に充当できる。

○予約者は希望する駐車場を予約フォームから選定（グーグルマップ）し購入するため、市内に駐車場案内看板を設置する必要もなく、「うろつき車両」の発生も少ない。

○料金前払制とすることで、入場に際し読取機の確認だけで済みスムーズに場内誘導できる。

■スタッフ配置はほぼ適切であったが、夏季の長時間にわたるイベントにおいては交代制などの配慮が必要。特に日本冶金は台数も多く日影がないなど悪条件で特に配慮が必要であった。

■大イベントになればなるほど絶対数としては駐車場が不足。民間による駐車場の活用も検討すべき課題となった。

■駐車場料金のダイナミックプライシング導入は今後とも取り組むべき施策である。民間では 2,000 円以上の料金も確認された。

(1) 臨時駐車場 / 事前予約制の有料駐車場 (2,000 円/台) を導入。

〈販売台数〉 7月20日 : 961台 1,922,000円

7月21日 : 2,885台 5,770,000円

合計 3,846台 7,692,000円

(2) 民間駐車場 (事前予約) の紹介 25箇所/約500台

7 交通規制関係

■宮津天橋立 IC 及び宮津与謝野 IC 付近に設置した定点カメラや京縦のライブカメラ、また宮津土木事務所の協力による国府道のライブカメラ等の情報提供により、各地の渋滞情報をリアルタイムで把握でき、事前・事後対処の検討に有効なツールとなった。

■行きの渋滞は皆無であった。公共交通機関利用推奨、駐車予約車両以外の来場を控える強力なメッセージが奏功した。加えて駐車場を完全予約制としたことに伴う来場者心理 (安心感) から、早着抑制やうろつき抑制ができたことも寄与した。

宮津警察署による指導により市外周辺地 (福知山・舞鶴・与謝野) への交通規制予告看板の設置や京都府警 HP への交通規制の掲示なども大きく寄与した。

この結果、市街地パンクも起こらず、違法駐車や大渋滞などの市民からの苦情もほぼなかった状況である。

■帰りについては、分散帰省を促進するためにブルー飛行後のイベント開催や集中化を抑制する看板設置、分散帰省の呼びかけなどを実施したが、宮津天橋立 IC 付近及び宮津与謝野 IC 付近において約2時間程度の渋滞が発生した。

■高速道路については、市街地渋滞解消後から、宮津天橋立 IC においては京丹後方面からの車との合流部において渋滞が発生した。

8 広報関係

■大規模イベントの広報に際しては、「来場者へのイベント告知」「市民や事業者など市内向けの告知」「車での来場者向けの告知」「鉄道利用者向けの告知」「車での来場抑制告知」など、ターゲットを明確にした広報が重要となった。

■様々な広報手段を活用したが、それでも一部の市民、事業者に情報が届いていない状況があり、イベント間際に苦情があったことから、早期に、かつ、確実に届く多様な広報手段を取り入れる必要性を感じた。

※市民：市広報 (SNS 含む) + 新聞折込。事業者：関係団体等を通じた伝達。

■イベント特設の LP を開設し、情報を集約・発信できた効果は大きかった。

■多くの問い合わせに対してワンストップで対応する「専用コールセンター」の設置は効果があった。

(1) イベント特設 LP を開設し、イベント情報を集約。

・開設期間：令和6年6月3日～

・PV数：181,076PV (6月36,919PV、7月142,268PV、8月1,889PV)

(2) SNS 動画配信 6月14日～6月30日 イベント告知 リーチ数 144,063

7月5日～7月21日 車での来場自粛 リーチ数 127,930

(3) 市長メッセージ動画配信 7月12日～

(4) αーステーション

- ・6月～ DMO 枠でのイベント告知

- ・7/18 市職員の生出演によるイベント告知

(5) イベント告知チラシの新聞折込 7月14日（宮津市・与謝野町）

(6) 北部7市町広報誌掲載 ⇒公共交通での来場推奨

(7) 公共交通機関の利用を促す周知・広報を積極的に展開。特に、駐車場の予約のない車両の流入を抑制するため、市長の動画、ラジオによる集中的な発信を実施。

- ・αーステーション 7/17～7/21：CM25回、DJ3回

- ・7/17 読売新聞広告 ⇒車での来場自粛 関西全域 1,074,684部

- ・7/18 宮津市 LINE による移動自粛依頼発信

日本三景「天橋立」海の京都にぎわいフェスタ スタッフ動員一覧

		7月20日	7月21日
宮津市職員		43	156
京都府職員		5	20
与謝野町職員		－	3
消防団		－	22
警備会社		22	161
交通指導員		－	12
宮津与謝消防組合		31	51
海の京都DMO		－	3
天橋立観光協会		－	4
宮津商工会議所		－	2
シルバー人材センター		－	34
ボランティア	第一生命保険株式会社 京都総合福知山宮津出張オフィス	－	26
	宮津与謝管内郵便局	－	15
	一般応募	－	11
	京都府立海洋高等学校	－	10
	京都府立宮津天橋高等学校	－	6
計		101	536

ブルーインパルス展示飛行in天橋立実行委員会
収支決算書（案）

収入の部

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差額	概要
宮津市補助金	25,000,000	23,423,036	-1,576,964	
事 業 収 入	6,000,000	10,428,420	4,428,420	・ 駐車場収入：7,692,000円 ・ 出店料収入：1,775,000円 ・ グッズ販売収入：961,420円
そ の 他	0	936	936	・ 決算利息
合 計	31,000,000	33,852,392	2,852,392	

支出の部

（単位：千円）

科 目	予算額	決算額	差額	概要
総 務 費	5,000,000	5,826,736	826,736	・ 駐車場販売システム構築、コールセンター設置等全体運営管理 3,315,400円 ・ イベント保険 458,860円 ・ ボランティア管理費 378,674円 ・ スタッフ用Tシャツ、イベントPRグッズ製作費等 1,673,802円
会場・警備費	12,000,000	16,023,147	4,023,147	・ 会場設営費 7,793,340円 ・ 警備費 6,318,596円 ・ 交通規制に伴う誘導対策費等 1,911,211円
輸 送 対 策 費	7,000,000	4,772,468	-2,227,532	・ 臨時駐車場運営費 2,954,813円 ・ ツアーバス運行管理費 1,524,010円 ・ 宮津駅帰路対策費等 293,645円
救護・衛生費	4,000,000	4,311,299	311,299	・ トイレ設置等衛生費 3,138,539円 ・ 熱中症対策費 1,002,174円 ・ 清掃対策費等 170,586円
広 報 費	3,000,000	2,918,742	-81,258	・ LP製作及びポスターデザイン費 1,700,600円 ・ Instagram用動画制作費 485,521円 ・ ポスター、チラシ印刷及び折込配布費 255,806円 ・ 紙面、ラジオ広告費等 476,815円
合 計	31,000,000	33,852,392	2,852,392	

監 査 報 告

ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立実行委員会会計について、収支決算書及び関係諸帳簿等を監査したところ、いずれも適正に処理されていたこと認めます。

令和 6 年 9 月 5 日

監 事

宮 田 英 樹



ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立実行委員会規約

(名 称)

第1条 本会は、ブルーインパルス展示飛行 in 天橋立実行委員会（以下「本会」という。）と称する。

(目 的)

第2条 本会は、令和6年の宮津市制施行 70 周年及び旧国鉄宮津線（現・京都丹後鉄道宮舞線）の開業 100 周年を記念して7月21日「日本三景の日」に実施する航空自衛隊ブルーインパルスによる天橋立上空での展示飛行（以下「展示飛行」という。）及び関連イベントの成功に向け、本市はもとより関係する行政機関並びに地域の各種団体・事業所等が連携し、総力をあげて取り組むことにより、本市をはじめ海の京都エリアの活性化を図ることを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 展示飛行及び関連イベントの実施に関すること
- (2) 関係機関・団体等との連携・調整に関すること
- (3) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(構 成)

第4条 本会は、第2条に規定する目的に賛同する行政・関係機関、団体・事業所及び個人をもって構成する。

(役 員)

第5条 本会に各号に定める役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 監 事 1名

2 会長は、本会構成員の互選により選出する。

3 副会長及び監事は、委員の中から、会長が指名する。

(顧 問)

第6条 本会に顧問を置くことができる。

2 顧問は、会長が委嘱し、本会の目的達成のために会長の諮問に応じる。

(役員の職務)

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

3 監事は、本会の会計その他の事務を監査する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は、本会が設立した日から本会の解散の日までとする。ただし、やむを得ず交代する役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第9条 本会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、議長となる。

2 会長は、議事を進行し整理する。

3 議事の決定は、出席構成員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(審議事項)

第10条 会議は、次に掲げる事項について審議し、決定する。

(1) 規約の改廃に関すること

(2) 事業計画に関すること

(3) 予算及び決算に関すること

(4) 事業報告に関すること

(5) その他、本会の運営に関する重要な事項に関すること

(部会の設置)

第11条 事業の円滑な推進を図るため、必要に応じて本会に部会を置くことができる。

2 部会長は、部会の決議による。

3 部会は、事業計画及び予算に関することを協議し、実施する。

4 部会で必要があるときは、関係者の出席を求めることができる。

(オブザーバー)

第12条 本会に、オブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

(経 費)

第13条 本会の経費は、負担金、補助金、その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第 14 条 本会の会計年度は、本会設立の日から令和 7 年 3 月 31 日までとする。

(会計報告)

第 15 条 本会の会計報告は、展示飛行及び関連イベント終了後、監事の監査を受けて本会の承認を得るものとする。

(会計事務の取扱い)

第 16 条 本会の会計事務は、経理方法等について公金に準じた取扱いをする。

(解散)

第 17 条 本会は、展示飛行及び関連イベント終了後に、本会の議決を経て解散する。

(余剰金及び欠損金)

第 18 条 本会が解散するときの収支決算において、余剰金または欠損金が生じたときは、本会で協議のうえ処理する。

(事務局)

第 19 条 本会の事務を処理するため、事務局を宮津市役所内に置く。

(その他)

第 20 条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規約は、令和 6 年 4 月 5 日から施行する。